

～災害支援の会～

四日市看護医療大学災害支援の会

① 活動の目的

東海地区及び自分の身の回りで震災が起こった時に、自分が看護学生・看護師としての行動ができるようにする。

② メンバーの役割

1, 2年生を中心に活動をしている。上の学年は下の学年に自ら活動に取り組んでいけるよう働きかけて、次の代につないでいくようにしている。下の学年は上の学年に教えていただいたことを今後の活動につなげていくようにしている。

③ これから取組内容

3月20日～23日にかけて、宮城県東松島市に行く。

まず1日目は東北参加大学を中心にディスカッション(主なテーマは、「東北の看護学生と災害時に看護学生・看護師として何ができるのか考える」である)をする。東日本大震災を経験していない私たちと、震災を経験した被災地に居住する学生や東北に居住しているが震災を経験していない学生とともに震災についての体験やこれまでの支援活動について一緒に考える機会を持ち、交流することで災害や防犯について考える。

2日目は仮説住宅を訪問し、参加学生(高校生も)と被災者で茶話会や足浴などを通して交流会を図る。

④ 地域との連携の具体的な状況

東北で実際に被害にあった人たちから貴重な体験談を聞かせてもらったり、三重県で活動しているフラダンスの団体などに協力してもらったりしている。

⑤ これまでの取組の成果・課題

1日目の交流会をしていくにあたって、できるだけ多くの学生たちの交流により、一人でも多くの看護学生が災害に関心を持ち、防災意識の高い学生が増加することを期待し、東海地方、東北地方の看護学生に参加を呼びかけてもらう。また、将来看護師を目指す高校生たちも大切な今後の人材として、今の段階から興味を持ってもらうために呼びかける。

震災時に避難所の運営や、衛生管理、健康への支援の経験者に協力してもらうことで経験あるなしにかかわらず、私たちの知識を深める。

⑥ 今後の方向性

東北の震災をきっかけに全国の支援が東北に集まり、つながった絆を大切に、今後は看護学生同士、同じ道を志すもの同士の交流を行っていく。これをきっかけに今後は東北を発信地とし防災について全国へ東北の学生自身がまだ支援が必要とされている地域に**継続した支援**を送ることができるようにする。

<活動している写真>



雪かき



足浴



講演会傍聴